

探訪 長門のい（おみ） ④3

坂倉勘七歌碑

碑の所在地 通・住吉神社境内
刻銘

〈碑の正面〉

算術師 篠原宗的 藤原直善

わすれめや手に取筆の束の間も

硯の海（イヅリ）のふかきなきさけを

算術師 木下兵左衛門

かせ誘ふ木下露の数（かず）をさへ

かそへし人の名（な）をそとむる

〈碑の左側面〉

明治二十七年十月

門弟 坂倉勘七 敬白



通・住吉神社拝殿前の石段を上ると、すぐ左側のこの碑が目を引く。総高170センチ余り、明治27年（1894）の建立である。刻まれている二首の短歌は、幼いころ寺子屋で学んだ坂倉勘七が、晩年、二人の師をしのんで詠んだもの。

歌の作者であり、碑の建立者でもある坂倉勘七は、萩の士族の家から母親の連れ子として坂倉家に入った。当時の家は現在の通9区にあった。

勘七は、長じてのちブリ大敷網（おおしきあみ）を仕組み、また回船による上方との取引に成功、明治維新のころには巨額の財を得たという。その後の火災に遭い、現在の通16区の地に居を移した。明治36年（1903）没。65歳。

算術師・篠原宗的……萩藩士。医者で漢学者。住居は現在の通3区。明治6年、小学私塾を開いた。塾生80余人がいたという。向岸寺に墓。

算術師・木下兵左衛門……木下家は通浦の百姓で、代々、孝子のほまれ高い家として知られる。住居は越町。

（兩人は明治5年の学制制定まで、寺子屋の師匠を努めた）

（寄稿・長門市郷土文化研究会）



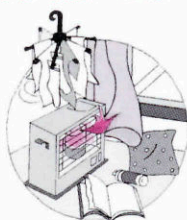
こちら 119

春季全国火災予防運動 3/1~3/7の間

春先は、空気が乾燥し火災のおこりやすい季節です。全国では、毎年約6万件の火災が発生し、約2千人の方が亡くなっており、昨年、山口県では49人の方が亡くなっています。火災をおこさないためにもわが家の防火診断をしてみましょう。



火をつけたまま、その場を離れることはありませんか？



燃えやすいものが、近くにありませんか？



たこ足配線をしていませんか？



吸殻は、水をかけずに捨てていませんか？

長門地区中央消防署 22-0119
火災時の問い合わせ 22-1414